**令和三年　第二十期くまもと俳句ポスト**

**第二十期開函**

**日本伝統俳句協会副会長　岩岡　中正　選**

**特選**

城裏ののとなりにけり　　　　　　　熊本県熊本市　　　 山﨑　綾子

**【講評】**

　「笹子」は、「笹鳴き」ともいって、冬の鶯のこと。冬は山中から里の藪へ下りてきて「チャッチャッ」と鳴きます。作者は四季折り折りのお城を訪ねているのでしょう。耳ざとく笹子のかわいい声に足をとめている姿が目に見える、静かな一句です。

**わが輩通り賞**

や阿蘇はのさりの里日和　　　　　　熊本県熊本市 　　 　 佐藤　誠吾

**入選**

秋晴れにつづみうちたる音高し　　　　　　熊本県熊本市 　　 　西田　光子

れば八雲の居間に冬の蠅　　　　　　　熊本県熊本市　　　 芥川　卓

激戦を偲ぶ紅葉の田原坂　　　　　　　　　熊本県熊本市　　　　 三隅　康資

**佳作**

炎昼の光さざめく水面かな　　　 　 　　　大阪府堺市　　　　　 宮﨑　智厳

真っ直ぐに真っ直ぐに行く神の旅　　　　　熊本県熊本市　　　　 鶴田　信吾

金木せいほのかに香るコーヒー店　　　　　熊本県熊本市　　　　 佐藤　琢朗

もれる三賢堂の散紅葉　　　　　　　　　熊本県熊本市 坂口　美穂子

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 投句総数　　六十七句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 市内　　　　四十四句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 市外　　　　二十三句

開函日　令和三年十二月三十一日